

内浦公民館だより

令和8年2月13日発行

(2026) <vol.149>

# Artfull うちうら

[発行]  
内浦公民館  
〒919-2351  
高浜町山中104-4-2  
TEL.0770-76-2007  
FAX.0770-76-2008  
E-mail  
uchiura\_c.c@town.takahama.lg.jp



## 3B体操

### <3回シリーズ>

ボール



ボール

ベルダー



令和8年1月23(金)

内浦公民館2階多目的ホールで3B体操を行いました。講師は藤内幸子さん。音楽のリズムに合わせて楽しく体操したり、体操用具を使って体を動かすことで体がほぐれ、あっという間に時間が経ちました。(今回はボールとベルダーを使用)おもに耳と頭をとおして、体を動かす3B体操!年齢問わず無理なく続けられる体操で、4月からは、毎月開催します!詳しい内容は後日お知らせいたします。お楽しみに!



## 骨格診断

～自分の骨格に合う服で街を歩きませんか?～



令和8年1月24日(土)

内浦公民館2階多目的ホールで骨格診断を開催しました。講師は福本いづみさん。最初に、参加者それぞれがチェックシートで自分の体チェックを行いました。福本さんからストレート・ウェーブ・ナチュラルのタイプ別の特徴や着こなしのアドバイスを聞いて、これまで悩んでいた洋服選びの参考となりました。

- 開館時間 午前8時30分～午後10時
  - 利用時間 午前9時～午後9時30分 夜間利用が無い場合は午後5時で閉館いたします。
- <3月の休館日> 2日(月)・9日(月)・15日(日)・16日(月)・23日(月)・30日(月)



## 草木染め教室～思い出の桜の木で染めてみよう～



令和8年1月31日(土)



内浦公民館2階調理実習室で草木染め教室を開催しました。講師は永登裕芳理さん。今回は思い出の詰まった内浦小中学校の桜の枝を使って染めました。この時期の桜はどんな色に染まるのか皆さん楽しみにされていて、次第にストールに色が変化するのを注目していました。仕上がったストールは、クリームのような優しい色で乾くと光沢がある絹のようでした。室内は桜の香りに包まれました。

### 地域ニュース

内浦地区の昔ばなしを紹介します！



### 音海の大ダコ



今から、どれくらい昔のことだろうか。海は青く澄み、天気の良いのんびりとした日だった。一人のおばあさんが、音海の岩場に岩海苔を採りにやってきた。ざぶーん、ざぶーん。波が真っ白に砕けると、そこは美しい緑色をした岩海苔が、おいしそうに張りついている。「どれどれ、今日はここいらの海苔を採るとしようかね」おばあさんは、よっこらしよと腰をかがめると、岩海苔を採り始めた。夢中で仕事に精を出して少し疲れたおばあさんは、腰をのばしてトントンとたたいた。すると、「おや？」隣の岩に目をやると、軟らかそうな何かが動いているのが見えた。おそろおそろ近寄って見ると、何と海の中からぐにやりとのびたタコの足だった。「こんな大きな足は見たことないよ。よっぽど大きなタコに違いない」おばあさんはそう呟くと、腰にさげたカマで一本だけ岩にのっている大ダコの足を切り落とした。しゅるしゅるー。大ダコの足はびっくりして、海の中に潜っていった。岩の上には、まだぐにやぐにやと動いている足の先っぽが残った。おばあさんは、それを籠の中に入れ、大急ぎで家に帰った。あくる日、おばあさんは今日も岩海苔を採りにやってきた。すると、また岩場に大ダコの足がのっているではないか。「今夜も、タコのごちそうや」おばあさんはにこにこ顔で、またその足を切り落とした。そんな日が一週間続き、おばあさんの家では七晩も思いがけないごちそうが続いた。「さてと、今日は最後の一本だ」少し残念に思いながら岩場にいてみると、やっぱり今日も大ダコの足はぐにやぐにやとそこにあった。おばあさんは、いつものように足めがけてカマを振りあげた。ところがその時、「うわあー」大ダコの足はおばあさんの足に巻きつき、ものすごい力でおばあさんを海に引きずりこんだ。ぱっしーん。あっという間に、おばあさんの姿は見えなくなってしまった。

(若狭高浜 むかしばなし 参照)



今回は 嶋津輝 著「カフェーの帰り道」です。

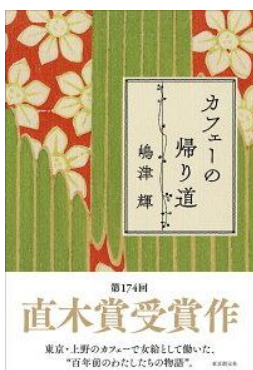
東京上野の寂れた一角にある「カフェー西行」。大正から昭和にかけて、そこで働く女給たちの交錯する人生を、優しく穏やかな視線で描く短編連作集です。

「稲子のカフェー」 関東大震災から2年経ったころ、初老の店主兼コックの菊田の店では、和装にエプロン姿の女給が数人働いている。そこで働いているタイ子は竹久夢二の美人画そっくりとの評判だった。稲子の夫は女学校の教師であるが、時々このカフェーを訪れている。夫とタイ子が親しくしていると耳にした稲子は一人で食堂へすら入ったことがないが、勇気を出して客として訪れる。タイ子を見て嫉妬するどころかうっとり見とれてしまう。タイ子はタイ子で稲子を見て、こんな奥様になれたらと憧れを抱く。

その後、タイ子の事情が明かされていき、誤解は解け、竹久夢二の美人画そっくりの化粧をしていた理由も明かされていき…。その後タイ子は評判を呼び、大きなカフェーに引き抜かれていくが、二人の行動はなんとも微笑ましい。

「出戻りセイ」 昭和14年。戦争が始まり、男たちは徴兵によって戦地に駆り出されていた。25歳で西行を辞めて輸入食品の会社に転職したセイの家は父が亡くなり、母親も病で、チップによる稼ぎを期待して、セイはカフェー西行に出戻りする。セイは年齢や出戻りを隠しチップを稼ごうと奮闘していた。ある日、髭面のむさ苦しい男・向井が「あんたの髪型はダサイ。こうしろ」とセイの容姿の違和感を指摘し、偉そうに助言してくる。「あんたは目鼻立ちがはっきりしているから」などと容姿を褒めつつ、素材を生かす指南を受け、セイは乗り気ではないが従ってみると、客に評判がよい。二人は親しくなるが、向井に召集令状がくる。

「タイ子の昔」 昭和17年、女給を辞め、地味なたばこ屋で生計を立てるタイ子。息子の豪一は、戦争で満州に出征した。豪一からの手紙には『自分のために母上は派手な女給から堅実な道を選んだこと、感謝しております』と書いてある。恋多きタイ子は息子に隠していた過去がある。カフェーで知り合った北村の妾となり、今の家を与えられたのだった。タイ子は、兵士として入営する豪一に彼が吸わないタバコを持たせる。戦場で周りの人にあげたら人望を得られるかも知れない。「僕に気にせず再婚してもいい」との豪一の言葉を思い出し、豪一も恋をしていたのでは?と推測し、豪一に恋人がいることを願う。息子から来る手紙の検閲も厳しくなり、頻度も少しずつ減っていく。



大正時代のカフェーは現代の高級なスナックやキャバクラの原型のような飲食店で、銀座や新橋の大きなカフェーに出るには、若さや容姿はもちろんのこと、実業家や芸術家と丁々発止の会話ができる知識や上手な接待が求められ、若い女性の憧れの職業でもありました。

章を進むごとに時代は流れ主人公も交代しますが、先に登場した女給たちのその後もわかり、うまく繋がっていきます。男性中心の社会の中で女性の社会進出やルッキズムなどの現代に通じる課題も織り交ぜながら苦難の時代を生き抜いてきた女給たちの逞しさを、ユーモアたっぷりに描き出し、どこか懐かしく、心に浸みます。

## 内浦公民館講座のお知らせ

参加者  
募集中

チラシや、たかはま情報ナビを  
ご覧ください！

\*古きものリメイク教室

講師 やまぼうしの会



2月14日（土） 13:30～15:30

\*おからを使った味噌づくり

講師 一瀬ひろみ さん



2月22日（日） 10:30～12:00

\*ぐる～っと内浦！  
古墳時代の内浦を探ろう

講師 鮎本眞友美 さん



2月28日（土） 13:30～15:00

\*自然とつながる四季のからだケア講座

講師 山崎慶子 さん



3月 1日（日） 13:30～15:00

\*元気あっぷ生き活き倶楽部

2月17日（火） 13:30～15:00

3月 3日（火） <体力測定>



予告！

令和8年4月から  
内浦公民館が面白くなります！！

只今、メンバー大募集中

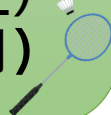
その1

初心者大歓迎！  
麻雀教室 開催！  
（4月～毎月）



その2

未来のオリンピック選手  
を目指そう！  
バドミントン教室  
開始！（小学生）  
（4月～12月）



その3

3B体操 が  
隔月から毎月へ！  
（4月～毎月）

